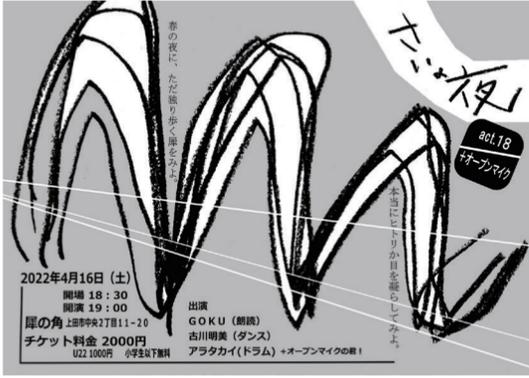




ライブ 犀の夜 act.18 + オープンマイク

春の夜に、ただ独り歩く犀をみよ。本当にヒトリか目を凝らしてみよ。



犀の角で定期開催される、ただ独りでステージに立つ者たちの宴『犀の夜』。この企画はソロで活動するアーティスト「犀」たちによるすべての個人に捧げるオムニバスイベントです。18回目を迎える今回は、朗読、ダンス、ドラムの3人が各々30分のステージを繰り広げます。3人のパフォーマンスのあとは恒例のオープンマイクも！独り6分×5組で、会場にいる皆さんから出演エントリーを募ります。アナタもぜひ！

日時：4月16日(土)
18時30分開場
19時開演
チケット料金：一般 2,000円
U-22 1,000円
小学生以下 無料



ご予約はこちら

チラシイラスト：ささきりょうた
チラシデザイン：GOKU
主催：GOKU, (一社) シアター&アーツうえだ

今回出演する犀たち



GOKU

かくことと、まむこと
で進む四輪駆動車。
詩人を名乗ったり
朗読家を名乗ったり
猫を愛でたり



古川明美

幼い頃から“超”がつくほどの運動音痴で、体育の授業が世界で一番キライでした。大人になってからダンスに出会い、見える世界が変わる。



アラタカイ

佐久市三島太鼓の
青鬼ドラマー



オープンマイク

当日エントリー制(先着順)、独り6分×5組。エントリーは場内受付でやります！スタッフまでお声がけください。

第六感劇場 太郎山及び虚空蔵山編

つつじき 躑躅忌

舞台は太郎山。客席はあなたが今いる場所。コロナ禍で生まれた上演形式「第六感劇場」による悲運な物語の主人公の慰霊祭、再び。

昨年へ続き、太郎山にまつわる民話として名高い「つつじのむすめ」の主人公を弔う慰霊祭をつつじの花が咲く5月に本年も執り行います。

むすめに扮した俳優が、実際に虚空蔵山から太郎山を駆け、男の家で餅を振る舞います。犀の角でリアルにむすめを待つもよし、第六感を駆使して自宅から感じるもよし。すべての人に捧げる鎮魂の儀式にどうぞご参列ください。



日時：5月7日(土) 夕暮れ～未明
会場：犀の角ならび上田市、虚空蔵山～太郎山
出演：寂光根隅的父、GOKU、小野秀、大沢夏海 他



犀の角Facebook

SAINOTSUNO COLUMN

今年、作家島崎藤村の生誕 150 周年に当たる。ご存知のとおり、犀の角では昨年 9 月中旬に『Before the Dawn 夜明け前 第一部』を百景社との協働で上演した。文庫本で4冊という長大な作品でもあるため、目下、今年一年をかけて第二部の戯曲化を目指している。

小諸に住みながら、私はこれまでほとんど藤村の作品に触れる機会のないまま過ごして来た。しかし、前述の舞台に触れたことからこの藤村晩年の代表作を一気に読了、この大作の持つ奥深い魅力に引き込まれ、学生時代以来のテキスト精読が喜びとなりつつある。

作品の第一部が昭和7(1932)年、第二部が昭和10(1935)年に、新潮社から出版された。舞台としては、昭和9(1934)年に第一部が、昭和11(1936)年に第二部が、いずれも新協劇団(脚本村山知義)により上演され、新劇史上の神話となった。村山自身が、主人公青山半蔵の置かれた立場をマルクス主義の『階級闘争』という観点から描いたと自ら述べている。太平洋戦争へと向かう危機的な時代背景の中、当時の観客たちはどのような思いを抱いてこの作品に触れていたのだろうか？

そして、今、ロシアとウクライナの戦争が泥沼化する只中(3月15日夜)で、私たちがこの歴史への問いを孕んだ大作と向き合うことには、どのような意味があるのだろうか？

第二部で描かれるのは、『御一新』に厚い信頼を寄せた果てに裏切られ、社会がどの方向へと向かおうとしているのかを全く見通し得ない深い絶望の内に正気を失ってゆく主人公の後半生である。令和4(2022)年の現在、『夜明け前』

をトラウマ・インフォームド(トラウマがあるかも知れない)という視点から読み解いてみてはどうだろうか？

ここで、注目してよいのは、劇場としての犀の角が、ちょうど半蔵が地域の子どもたちを集めて寺子屋のような学びの場を創ったように、『のきした』や『やどかりハウス』などの営みにかかわることによって上田市の真ん中に或る確かな磁場を生成しつつある事実だ。

自ら“任職”と任ずる荒井代表は、『器の外へと皮膜を超えて沁み出す働き』として劇場を捉える。「上田街中演劇祭」の命名にもそれは明らかだが、今回も2月17日(旧暦の藤村の誕生日)を皮切りに、コロナ禍が産み落とした「一坪半劇場」で俳優による『夜明け前』全編の朗読を脚本化と相俟って貫徹せんとする野望に火が付いた。

これから、正しく「夜明け前」と化した私たちの日常が、藤村の描き出した『夜明け前』とがっぷり四つに組み合うことになるだろう。いや、すでにそれは始まっている。

宮尾 彰 Akira Miyao

『夜明け前・第二部』ドラマトウルク/小諸市在住。大学でロシア文学を学ぶ。令和元(2019)年5月犀の角にて三春場普鎮(ミハイル・パフチン)の名で『令和のチェーホフ』を語る。卒業旅行で訪れた古都キエフの運命を深く憂慮する。

藤村プロジェクト Facebookページ



チケット及びお問い合わせ

犀の角 / シアター&アーツうえだ

〒386-0012 長野県上田市中心2丁目11-20
TEL: 0268-71-5221 MAIL: info@sainotsuno.org
営業時間: 7:30~10:00 / 16:00~21:30 月曜定休

